

総務委員会資料

所管事務の調査（報告）

新川崎・創造のもり産学交流・研究開発施設整備の
進捗状況について

資 料 新川崎・創造のもり 産学交流・研究開発施設（新施設）整備の
進捗状況について

参考資料1 報道発表資料

参考資料2 新川崎・創造のもり地区の概況

参考資料3 新川崎・創造のもり パンフレット

参考資料4 新川崎地区ネットワーク協議会 パンフレット

経済労働局

平成28年7月14日

1 新川崎・創造のもり地区について

- 新川崎・創造のもり地区では、産学官の連携による、新しい科学・技術や産業を創造する研究開発拠点の形成等を目指し、段階的な施設整備を推進
- 新川崎・創造のもりの状況
 - ① K²タウンキャンパス…慶應義塾大学の先導的研究施設 (H12.7開設)
 - ② かわさき新産業創造センター
 - KBIC…ベンチャービジネス創出支援施設 (H15.1開設)
 - NANOBIIC…ナノ・マイクロ技術を核とした産学官共同研究施設 (H24.4開設)
- 現在、「創造のもり」事業の集大成となる本市のオープンノベーション拠点施設である産学交流・研究開発施設（新施設）の整備を推進



K²タウンキャンパス



KBIC



NANOBIIC

新施設の入札経過	
平成27年6月 4日	市民委員会報告 〔「産学交流・研究開発施設」の整備推進について〕
平成27年6月10日	入札公告
平成27年9月 8日	入札参加者の辞退による入札中止
平成28年3月29日	再入札公告
平成28年6月10日	審査・落札者の決定（大和ハウス工業(株)・大和ライフネクスト(株)）

●新川崎・創造のもりの施設配置



新川崎・創造のもり全体図

2 産学交流・研究開発施設（新施設）の概要

- PPP手法により大和ハウス工業(株)が整備
- 延床面積約28,000㎡、鉄骨造、地上5階 地下1階建
- 市は、公共施設部分を買取り、KBIC・NANOBIICと合わせ三棟一体の公の施設として管理・運営
(かわさき新産業創造センター条例に基づき設置)
- 大和ハウス工業(株)は、民間施設部分等を管理・運営



外觀イメージ

新施設の主な機能

【民間施設部分】

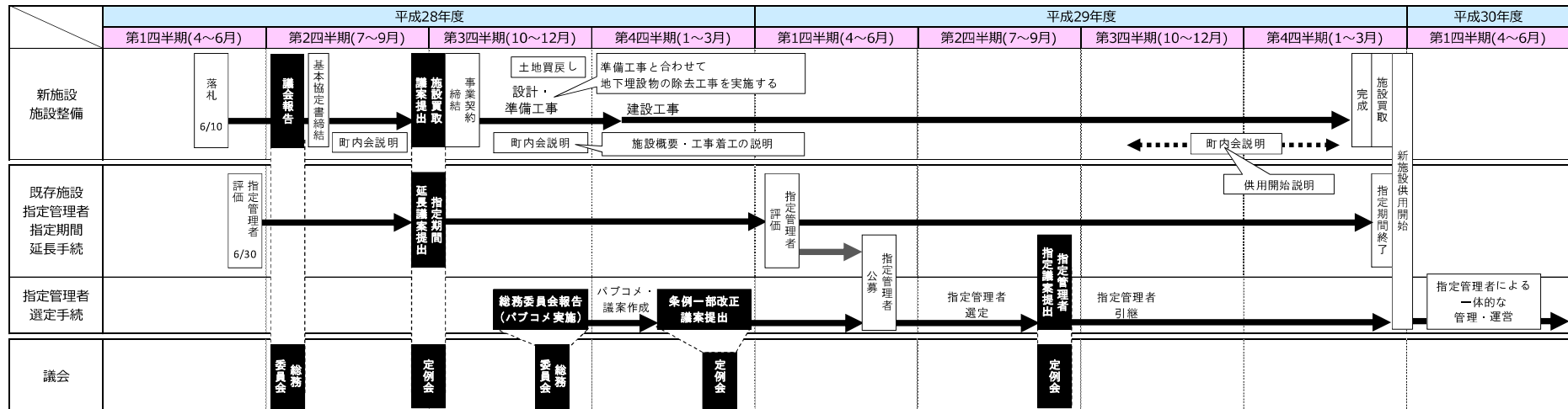
- 大企業の研究開発部門等をメインとした研究・オフィススペース
(長期入居を可能とし、中長期プロジェクトとのオープンノベーションを推進)

【公共施設部分】

- ① 中小企業・ベンチャー企業をメインとしたインキュベーション機能としての研究・オフィススペース
(KBIC・NANOBIICの入居年限は、原則5年間、最大8年間)
- ② 大会議室（産学連携・交流機能）
- ③ 飲食・物販スペース（アメニティ機能）

施設部分	機能	面積	合計	施設合計
民間施設部分	研究・オフィススペース（長期入居可能）	約10,300㎡	約21,000㎡	施設合計 約28,000㎡
	通路等	約7,500㎡		
	その他(エントランスホール等)	約3,200㎡		
公共施設部分	研究・オフィススペース（インキュベーション機能）	約3,600㎡	約7,000㎡	
	交流スペース・通路等	約1,200㎡		
	大会議室・ホワイエ	約800㎡		
	飲食・物販スペース	約300㎡		
	その他(エントランスホール等)	約1,100㎡		

3 施設整備スケジュール



「新川崎・創造のもり 産学交流・研究開発施設整備事業」 の落札者が決定しました！

「創造のもり」事業の集大成となる本市のオープンイノベーション拠点施設を整備する「新川崎・創造のもり 産学交流・研究開発施設整備事業」について、平成28年3月29日付けで総合評価一般競争入札による入札公告を行いました。

結果として、1者から入札参加があり、6月10日に開催した学識経験者等で構成する「新川崎・創造のもり 産学交流・研究開発施設整備事業推進委員会」の審査結果を踏まえ、次のとおり落札者を決定しました。

本施設は、平成29年度末のオープンを目指し、整備を進めているものです。

1 落札者 大和ハウス工業株式会社・大和ライフネクスト株式会社

2 総合評価点 499.5点（700点満点）

3 落札金額（市の買取価格）

2,675,977,800円（消費税額及び地方消費税額を除いた額）

※本施設は、民間事業者が整備し、その一部分を川崎市が公共施設として買い取るものです。

4 落札者の提案概要

構造(階数)	鉄骨造（地上5階・地下1階）
建築面積	5,344㎡
延床面積	28,136㎡（うち市買取部分7,020㎡）
最高高さ	23.8m

※提案資料として提出されたものであり、今後の精査により異同を生じる場合があります。

外観イメージ



新川崎・創造のもり事業の概要

新川崎・創造のもり(幸区新川崎7)では、産学官の連携による新しい科学・技術や産業を創造する研究開発拠点の形成と、次世代を担う子どもたちが科学・技術への夢を育む場づくりを目指し、段階的な施設整備を推進しており、このたび整備する「産学交流・研究開発施設」は、「新川崎・創造のもり」事業の集大成となる本市のオープンイノベーション拠点施設になります。



K² (ケイスクエア) タウンキャンパス 平成12年7月開設

慶應義塾大学の先導的研究施設で、最先端の研究開発を実施
13研究プロジェクト、2教育プログラムが入居



かわさき新産業創造センター「KBIC」 (ケービック) 平成15年1月開設

ベンチャー企業の入居スペースと専門家による支援メニューを提供するインキュベーション施設
20企業、4研究室等が入居



ナノ・マイクロ産学官共同研究施設「NANOBIK」 (ナノビック) 平成24年4月開設

ナノ・マイクロ技術分野の最先端の研究開発から製品化まで行うことが可能な、人材、技術、最先端の研究機器等を集積させた高度なファブリケーション施設

川崎市経済労働局次世代産業推進室
ベンチャー産業創出担当 対馬、野本、山内
電話 044-200-3712 (内線 28303)
FAX 044-200-3920 (内線 28199)

- 新川崎地区は、日本電産(株)中央モーター基礎技術研究所(平成26年1月オープン)や、ユニキャリア(株)本社・研究所(平成27年8月オープン)等の立地も進み、先端技術の研究開発に取り組む企業・大学の集積がさらなる進展(推定就業人口約1万8,000人)
- また、E地区内のパイオニア(株)本社・研究所が平成28年3月で市外に移転したが、今後、同施設には年内に富士通(株)が入居予定
- 新川崎地区内の企業・大学を中心とした連携組織「新川崎地区ネットワーク協議会」(会長:元山義郎 三菱ふそうトラック・バス(株)副社長、会員数:企業42社、大学、関係機関)が発足、新川崎・創造のもりを拠点とし、活発な産学・産産連携活動を推進



新川崎・創造のもりの役割

ベンチャー支援と産学連携による産業イノベーション拠点

「NANOBIIC」では、インキュベーションの他、産学連携支援、4大学が保有する世界最先端の研究機器を企業等に開放、技術指導を行うなど、市内事業者のものづくり技術の高度化支援に取り組んでいます。

NANOBIICにおける産学連携支援

- 入居企業・市内企業
- 4大学の先端研究機器 共同利用
- ナノ・マイクロ技術支援 講座等の実施
- 共同研究の推進
- コーディネーターによる 技術支援・連携支援
- 4大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアム

4大学のクリーンルームと最先端の研究機器 (左からクラス100、クラス10000)

「キングスカイフロント」のライフサイエンスの取組

D地区 新川崎・創造のもり

第1期事業 K2 (ケイスクエア) タウンキャンパス 平成12年7月開設
慶應義塾大学の先導的研究施設で、最先端の研究開発を実施
13研究プロジェクト、2教育プログラムが入居

第2期事業 かわさき新産業創造センター「KBIC」(ケービック) 平成15年1月開設
ベンチャー企業の入居スペースと専門家による支援メニューを提供するインキュベーション施設
23社、4研究室、4大学が入居
オープン以来、9.0%以上の入居率を維持

第3期第1段階事業 ナノ・マイクロ産学官共同研究施設「NANOBIIC」(ナノビック) 平成24年4月開設
ナノ・マイクロ(※)技術分野の最先端の研究開発から製品化までを一気通貫で行うことが可能で、人材、技術、最先端の研究機器等を集積させた高度なファブリケーション施設
超微細加工や計測を行うため、微小なほこりを排した約750m²の大型クリーンルーム(クラス100、クラス10000)を完備
慶應、早稲田、東工大、東大からなる4大学のナノテクコンソーシアム、日本IBM東京基礎研究所・東京大学の共同研究プロジェクト他、ナノテク関連企業等5社が入居
※ナノは、10億分の1を表す単位、マイクロは100万分の1を表す単位

新川崎地区を中心とする企業、大学等の連携・交流拠点

平成24年度に新川崎地区内の企業・大学を中心とした産学連携、産産連携を目指す組織「新川崎地区ネットワーク協議会」が発足し、活動を開始しており、新川崎地区において、産学連携基盤の形成が進んできています。
会員数:企業42社、大学、関係機関

新川崎地区ネットワーク協議会の活動

「ナノ茶論」大学の研究者と企業の定期交流会

会員企業、研究開発拠点等の見学会

「さいわいトライサイエンス」地域の子ども向け科学イベント

会員企業イベントの地域開放

子どもたちが科学・技術とふれあい、夢を育む創造拠点

科学の面白さや楽しさを体感できる子ども向け科学イベント「科学とあそび幸せな1日」は、創造のもり一帯を活用し、K2タウンキャンパス、川崎市、及び「創造のもり」内外の企業や団体が協力して開催しています。(毎年9月頃開催)
昨年度開催実績:参加者約1,300人

産学官の連携による創造的研究開発拠点

新川崎・創造のもり



“産業集積拠点”川崎市～連携と先端技術開発の進展～



川崎市は、首都圏の中心部に位置し、優れた人材を持つ中企業が集積するとともに、京浜工業地帯の中核を担う、日本有数の製造業集積都市です。さらに、都市型工業地帯の特色を生かした数年間産・商品開発を担う知識集約型・高付加価値型の産業集積地への転換も進み、約4,000の研究開発拠点が集積する研究開発都市でもあります。

マイコンシティ

エレクトロニクス・情報・通信関連産業の集積を目指し、国際的な研究開発拠点を

明治大学地球環境学連携研究センター

明治大学の拠点を軸に、社会資源を有効活用し、新技術・新事業の創出、地域中小企業の育成等を行う地域連携の交流促進拠点

KSP（かながわサイエンスパーク）

日本初の都市型サイエンスパークであり、総面積日本最大級（敷地面積約55,000㎡、就業者数約4,600名）

THINK（テクノハブイノベーション川崎）

JFEグループの既存研究開発拠点を活用して、新事業の創出、新分野への進出支援や産学連携共有目的の実現を目指すサイエンスパーク



新川崎地区キングスライフフロント

羽田空港の物件に位置する敷地3丁目を中心としたライフサイエンス分野の研究開発拠点。平成23年12月「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」に指定。平成23年8月「東京臨海臨海地特化」に指定

川崎南地区研究センター（約2000㎡）
ナノテクノロジーイノベーションセンター（約2000㎡）

「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」新川崎地区の画期的な特徴・強みを生かし、特区内のさらなる発展を促進していきます。

新川崎地区

高度な技術による新産業の創出を目指す先端技術の集積拠点を平成26年10月「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」に指定

新川崎地区は、国土が広く、多くの企業・大学の拠出の体制が、新川崎地区に高度な技術の創出を促し、社会資源を有効活用する体制が、約4,000名以上の就業者が集積する拠点と期待されています。

- A地区** 4.3ha 高度な技術力をもつ製造業の集積ゾーン
- B地区** 4.5ha 産業・業務、都市型サイエンス
- C地区** 2.5ha 研究開発・交流ゾーン
- D地区** 1.0ha 研究開発・交流ゾーン（大学等・産学連携）
- E地区** 1.0ha 産業拠点・育成ゾーン（サイエンスパーク・コネクティブ）
- F地区** 1.0ha 都市型居住者の誘引ゾーン（小学校等）



新川崎地区の産業集積を促すべく、平成24年7月に新川崎地区内の企業・大学を中心とした産学連携・産官連携を推進する「新川崎地区ネットワーク協議会」が設立。産学産官等が連携を取り組んでいます。

新川崎・創造のもりの概要



新川崎・創造のもりは、産学官の連携による新しい科学・技術や産業を創造する研究開発拠点の形成と、次世代を担う子どもたちが科学・技術への夢を育む場づくりを目指し、段階的な施設整備を推進しています。

これまでの経緯	
平成11年2月	「新川崎・創造のもり計画」の策定
平成11年2月	「新川崎・創造のもり計画」の推進への協力に関する川崎市と慶應義塾の協定締結
平成12年7月	【第1期事業】慶應義塾大学の先導的研究施設「K ² タウンキャンパス」の開設
平成16年1月	【第2期事業】ベンチャービジネス創出拠点「かわさき新産業創造センター（KBIC）」の開設
平成17年1月	新川崎地区・地区計画の策定
平成20年9月	新川崎・創造のもり第3期事業用地 土地利用方針の策定
平成21年1月	「4大学ナノ・マイクロアプリケーションコンソーシアムと川崎市との連携協力に関する基本合意」締結 4大学コンソーシアムの研究成果を地域産業の活性化に生かし、先端科学技術による世界への貢献を目指した連携協力
平成21年11月	川崎市と慶應義塾との連携・協力に関する基本協定の締結
平成22年10月	新川崎・創造のもり第3期事業地区 産学官共同研究施設整備基本計画の策定
平成24年1月	東京大学、日本アイ・ビー・エム株式会社、川崎市による「東京大学社会連携講座の実施に関する基本協定」の締結 「省エネルギーを目指した、次世代ナノ・マイクロデバイスとシステム」をテーマとした研究を実施
平成24年4月	【第3期第1段階事業】ナノ・マイクロ産学官共同研究施設「NANOBIIC」の開設
平成25年10月	「京浜臨海部ライフインノベーション国際戦略総合特区」に新川崎A,D,E地区が追加指定
平成26年5月	【第3期第2段階事業】産学交流・研究開発施設整備基本計画策定



【第1期事業】 K²(ケイスクエア) タウンキャンパス

慶應義塾大学の先導的研究施設

産学官地域連携による研究開発拠点の形成

建物	研究棟4棟 (K棟、E棟、1棟、O棟)・厚生棟1棟 (K ² ハウス)
構造	鉄骨造2階建
敷地面積	約16,000㎡
延床面積	約3,150㎡
短床面積	約6,301㎡

【第2期事業】 かわさき KBIC

ベンチャービジネス創出拠点

川崎市

建物	本館、別棟
構造	鉄骨造2階建
延床面積	本館 約1,854㎡、別棟 約113㎡
短床面積	本館 約3,428㎡、別棟 約212㎡
主な諸室	スモールオフィス (各室15㎡)、ラボ (各室30×200㎡)、打合せ交流コーナー (106㎡)、会議室 (90㎡)、アミニティコーナー (78㎡)、ものづくり工房 (100㎡)、CAD / CAM研修室 (47㎡) 等

【第3期事業】 かわさき新産業創造センター新館 NANOBIIC

ナノ・マイクロ産学官共同研究施設

- 環境・ライフサイエンス等様々な分野に活用が期待されるナノ・マイクロ技術の産学官共同研究施設
- 大型クリーンルーム (750㎡) を備え、「加工一試作一針測一評価」の一連の作業が可能
- 4大学 (慶應・早稲田・東工大・東大) ナノ・マイクロアプリケーションコンソーシアムの有する最先端の研究機器を導入し、企業等へ開放
- 4大学コンソーシアム、日本IBM等のナノ・マイクロ技術に関する世界最先端の研究機関やナノテクベンチャー企業等が集結

※ナノ・マイクロとは、ナノ (10億分の1メートル、マイクロ (100万分の1)メートルといった「超微細な造形を表す単位」) です。

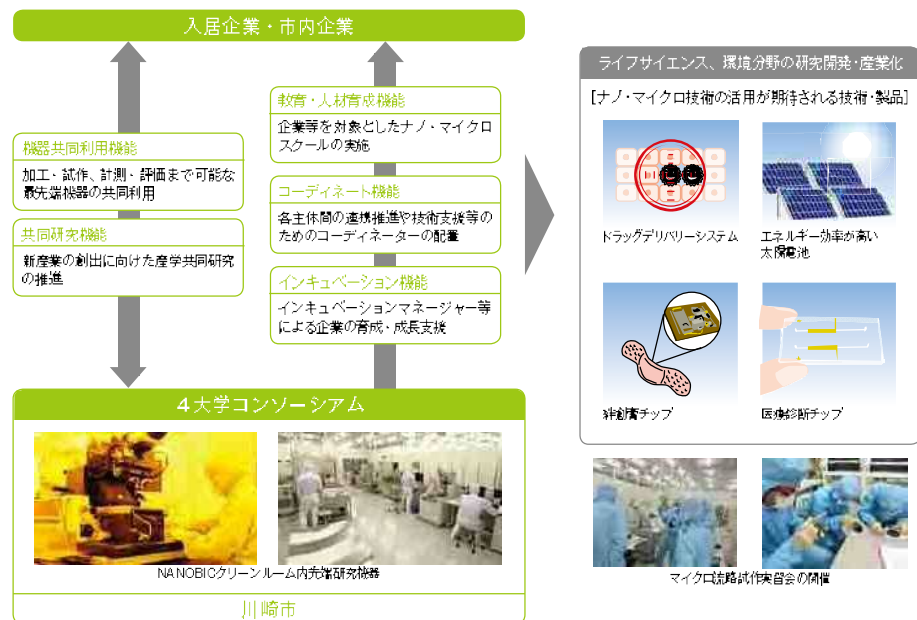
建物	研究棟、クリーンルーム棟
構造	鉄骨鉄筋コンクリート、一部鉄筋コンクリート造2階建
延床面積	約3,616㎡
短床面積	【研究棟】約1,174㎡、クリーンルーム棟 約2,442㎡
主な諸室	【研究棟】1,977㎡、クリーンルーム棟 約2,839㎡
	ラボ (各室50㎡)、クリーンルーム (750㎡、一部クラス100)、ピクチャー室2室 (各室25㎡)、会議室 (100㎡)、研修コーナー、アミニティコーナー等

ナノ・マイクロ技術を核とした産学連携支援と さらなる事業展開



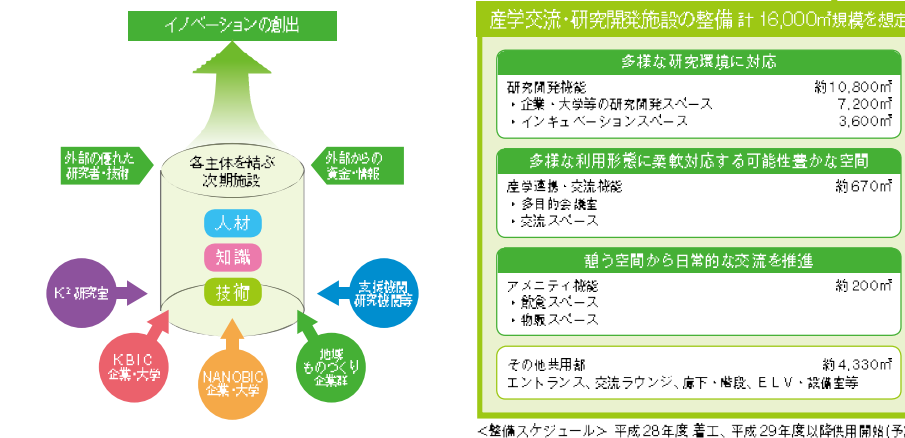
ナノ・マイクロ技術を活用した研究開発をトータルで支援

平成24年度にオープンしたNANOBIOでは、インキュベーション事業の他、市内中小企業等を対象としたナノ・マイクロ技術支援講座の開催、4大学が保有する最先端の機器を企業等に貸し出す機器共同利用事業を行うなど、市内事業者のものづくり技術の高度化に向けて、トータルで支援を行っています。



イノベーションの創出に向けた新たな施設の整備

新川崎・創造のもりの第3期第2段階事業(次期事業)として、新たに「産学交流・研究開発施設」の整備を予定しています。新たな施設は、創造のもり地区の企業・大学や周辺の企業等が集い、交流する結節点としての役割を果たし、これまで多数創出してきた「イノベーション」(科学的・工学的な発見)をさらに発展させ、我が国経済をけん引する新たな「イノベーション」の創出を目指します。



創造のもりで展開されている活動

ナノテクセミナー・ナノ茶話(サロン)

「ナノテクセミナー」の定期開催、ナノ・マイクロ技術を活用したアプリケーションの開発や業界の最新動向についてディスカッションする少人数制のサイエンスカフェ「ナノ茶論」の毎月開催など、技術者・研究者の交流機会を多数設けています。



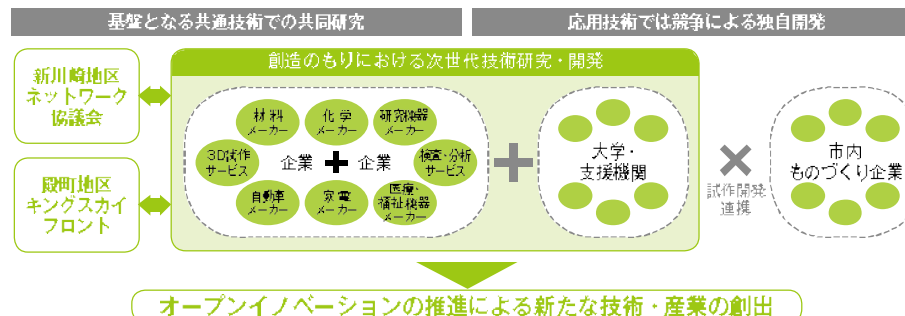
科学とあそぶ幸せな一日

創造のもりで毎年秋に開催される子ども向けの科学体験イベントです。地域の企業・大学・団体の協力により、子どもたちの科学の夢を育む実験教室や工作教室、展示などが行われ、当日は、多くの家族連れで賑わいます。



オープンイノベーションの推進

新川崎・創造のもりの研究開発活動は、企業・大学が集い、交流する世界的な研究開発拠点を参考とし、研究開発のオープン化を進めます。また、「新川崎地区ネットワーク協議会」や「殿町地区キングスカイフロント」との連携により、ライフサイエンス分野等での革新的な技術・製品、産業の創出を図るなど、「オープンイノベーション」の実現を目指します。



新川崎・創造のもり アクセスのご案内



〒212-0032 川崎市幸区新川崎7-7 TEL:044-587-1105 FAX:044-587-1106

お問い合わせ先
川崎市経済労働局次世代産業推進室
〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町11-2 川崎フロンティアビル10階
TEL:044-200-2407 FAX:044-200-3920
28sozo@city.kawasaki.jp

会員企業・大学・関係機関

〈企業〉

- アースクリーン株式会社
- 株式会社e-Gle
- 池田葉草株式会社
- 株式会社イクシスリサーチ
- イノベティブ・デザイン合同会社
- 株式会社イフェクト
- エイヴェルジャパン株式会社
- 春日電機株式会社
- 共進精機株式会社
- 株式会社協同インターナショナル
- 黒田精工株式会社
- SCIVAX株式会社
- SCIVAXライフサイエンス株式会社
- 株式会社GSP研究所
- 株式会社ショウエイ
- 株式会社データサイエンスコンソーシアム
- 株式会社テクノロード
- 株式会社テレカルト
- 株式会社テレメディカ
- 株式会社東計電算
- 株式会社長津製作所
- 日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所
- 日本電産株式会社 中央モーター基礎技術研究所
- バイオニア株式会社
- 長谷川香料株式会社 総合研究所
- パナックアドバンス株式会社
- 株式会社日立製作所情報通信システム社
- 株式会社HIRO ICT研究所
- 株式会社FOMM
- 藤森工業株式会社
- 株式会社べっとぼーど
- 三菱ふそうトラック・バス株式会社
- 株式会社ミツミネ電子
- 有限会社メカノトランスフォーマ
- メディサイエンス・エスポア株式会社
- メルセデス・ベンツR&D日本
- ユニキャリア株式会社

企業37社

〈大学〉

- 4大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアム
- 慶應義塾大学 新川崎先端研究教育連携スクエア

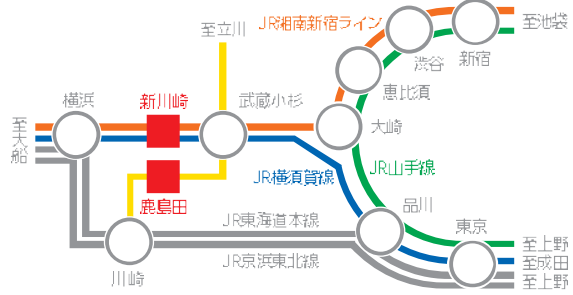
〈関係機関〉

- 川崎商工会議所
- 公益財団法人 川崎市産業振興財団

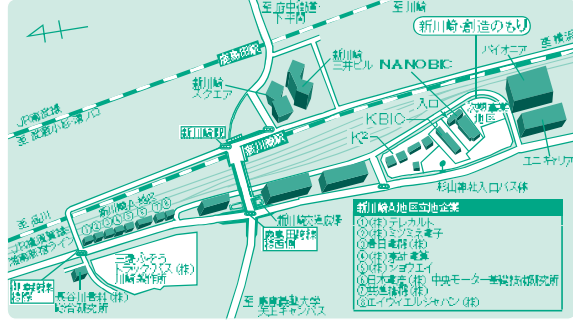
(平成28年3月現在)



新川崎へのアクセス



- JR東京駅より新川崎駅まで.....約20分
- JR横浜駅より新川崎駅まで.....約10分
- JR川崎駅より鹿島田駅まで.....約7分
- JR横須賀線・新川崎駅より.....徒歩10分
- JR南武線・鹿島田駅より.....徒歩15分



[事務局] 川崎市 経済労働局 次世代産業推進室
 TEL: 044-200-2407
 E-mail: 28sozo@city.kawasaki.jp
 新川崎・創造のもりWeb : <http://www.kawasaki-net.ne.jp/sozo/>



一連携からイノベーションへー 新川崎地区ネットワーク協議会



新川崎地区ネットワーク協議会

設立の経緯

新川崎地区は、企業・大学等が多数立地しており、周辺を含めた当地区の就業人口は約1万8,000人にのぼるものと推計されます。

こうした新川崎地区の産業集積とポテンシャルを活かし、産学官連携による新たな産業創出をめざすため、平成24年7月に地区内の企業、大学等によるネットワーク組織「新川崎地区ネットワーク協議会」を設立しました。

協議会は、現在、産学官連携による新しい産業の創造拠点「新川崎・創造のもり」を中心に企業37社、大学、関係機関等から構成されています。(平成28年3月現在)

協議会では、科学・技術の成果等の積極的な情報発信を行っていくとともに、産学連携、産産連携による新たな技術開発など、新川崎発のイノベーションの創出に向けた活動を行っています。

役員



会長 ● 元山 義郎
三菱ふそうトラックバス株式会社
副社長 生産本部長

かつて東洋一を誇る新観見の操車場が広がっていた新川崎地区は、現在、研究開発型のものづくり企業や大学等が集積しています。

弊社は、古くから新川崎地区に工場を構え、地域に根差した企業として操業してまいりましたが、この10年で新川崎地区は大きな変貌を遂げ、企業や大学が集積する豊かな産業基盤に加え、快適な住環境と緑、自然が調和し、成長都市川崎の中でも大変魅力的なエリアへととなり、さらに発展を続けています。

当協議会は、この新川崎地区というエリアにフォーカスし、分野、業種、規模にとらわれることなく、バラエティに富むメンバーが集い、連携することを目指し、2012年に発足いたしました。メンバー間のいくつもの「新しい連携」を生み出し、さらには「イノベーション」へとつなげていくため、これまで様々な活動を展開してまいりました。

2016年からの協議会活動は、これまでの活動を基盤とし、いよいよ「飛躍のステージ」へと進めてまいります。今後は、会員間の連携を一層強固なものにしていくとともに、エリア内にとどまらず、川崎市内あるいは市域を超えた広域的な連携に取り組み、多数の交流・連携の機会の創出を図ります。

こうした活動を通じ、新川崎地区の多様な個性を生かした「オープンイノベーション」を実現するとともに、地域コミュニティの発展にも貢献し、新川崎地区の魅力、価値をさらに高めてまいりたいと考えております。



副会長 ● 辻 永
株式会社ショウエイ
代表取締役

副会長 ● 丸山 茂夫
東京大学大学院工学系研究科教授
4大学ナノ・マイクロ
アプリケーションコンソーシアム
総務委員会幹事



幹事 ● 池田 謙伸
株式会社協同インターナショナル 日本アイ・ビー・エム株式会社
代表取締役

幹事 ● 折井 靖光
東京基礎研究所
サイエンス&テクノロジー部長
新川崎事業所長



幹事 ● 森 俊介
バイオニア株式会社
総務部長

幹事 ● 田中 文教
慶応義塾大学
新川崎先端研究教育連携スクエア
新川崎(ウイング)キャンパス事務長



活動



新川崎地区
ネットワーク協議会の
3つの重点活動領域

産産連携・産学連携の推進

会員の操業環境の向上

市民との交流の推進

協議会活動
・会員の取組

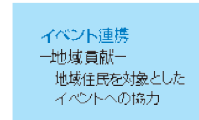


会員間交流事業
-協議会開催-
-会員企業・大学間の情報交換
-会員企業見学会



産学連携事業
-ナノ茶論(サロンの開催)-
-大学の研究者と
-企業の研究者の交流会

情報発信事業
-協議会活動
の発信-



イベント連携
-地域貢献-
-地域住民を対象とした
イベントへの協力



新川崎地区の企業・大学立地状況



A地区 4.3ha	高度な技術力をもつ 製造業の集積ゾーン
B地区 3.9ha	商業・業務 都市型居住ゾーン
C地区 2.0ha	都市型居住ゾーン
D地区 8.1ha	研究開発・交流ゾーン ・新川崎・創造のもり
E地区 4.8ha	産業創出・育成ゾーン ・バイオニア株式会社 ・ユニキャリア株式会社
F地区 10.1ha	都市型居住等の複合ゾーン ・小学校等

【新川崎A地区 立地企業】

